

能登町立鶺川公民館 創立70周年記念誌



鵜川公民館に関する主な出来事

1945年	昭和	20年	8月	15日	太平洋戦争終戦
1946年	昭和	21年	7月	5日	文部次官通牒 発社大122号「公民館の設置運営について」 石川県内務部長より市町村長に移牒 鵜川町が青年教育設置として公民館の設置を要望 青年学校職員学務委員を持って準備委員として暫定委員とした
1947年	昭和	22年	4月	1日	鵜川町立鵜川中学校創立 泉原小五郎館長就任
			7月	18日	鵜川町公民館設置 国民学校舎一部と社会館を利用
1948年	昭和	23年			本館を森林組合事務所十五坪を転用 経費は半分を青年教育研究会残り半分は寄附 石川県社会教育協会発足 石川県教育委員会設置 鵜川公民館に鵜川保育所が付設
1949年	昭和	24年	2月	10日	鳳至郡公民館連絡協議会を結成 石川県公民館振興協議会(石川県公民館連合会)結成
			6月	10日	社会教育法公布
			10月	6日	第一回石川県公民館大会開催(金沢市西町公会堂)
			11月	3日	鵜川町制10周年記念祝賀行事
1951年	昭和	26年	4月		公民館木造 建物面積204.89㎡ 完成 階下を保育所同所階上を公民館として使用 瑞穂小学校舎一部を分館として利用
			7月	10日	鵜川町公民館報 第一号発行 ※資料添付有 郡内優良公民館表彰を受ける 竹内久雄(町長兼任)館長就任
1952年	昭和	27年			
			7月	14日	石川県優良公民館表彰を受ける
1955年	昭和	30年	3月	25日	宇出津町、三波村、神野村の一部、 珠洲郡小木町の4町村が合併 能都町が誕生
1956年	昭和	31年	9月	30日	鵜川町が能都町へ編入「能都町立鵜川地区公民館」に変更
1957年	昭和	32年	6月	1日	古本吉志雄館長就任
1958年	昭和	33年	4月	1日	瑞穂分館が瑞穂公民館として独立
1959年	昭和	34年	8月	26日	豪雨で鵜川大橋に船がひっかかり山田川が氾濫
1961年	昭和	36年	7月		横綱若乃花、横綱朝潮が阿武松碑等を訪問
1963年	昭和	38年	1月	11日	1月27日まで雪が降り続き北陸地方が大雪に見舞われる
			8月	17日	平田茂治館長就任
1967年	昭和	42年	10月	7日	柱山八郎館長就任
1969年	昭和	44年	12月		公民館の建物内の鵜川保育所移転
1971年	昭和	46年	8月	28日	古本与志雄館長 再任
1973年	昭和	48年	8月	28日	浜谷至致館長就任
1974年	昭和	49年	12月	8日	鵜川青年団主催「第一回歩こう会(鵜川～姫 往復)」開催
1976年	昭和	51年	12月	10日	鵜川地区公民館新築促進について陳情書提出
1977年	昭和	52年	7月	28日	能都町立鵜川地区公民館新築工事着工
1978年	昭和	53年	2月	28日	鵜川公民館鉄骨造2階建 建物面積886.94㎡完成
1981年	昭和	56年	10月	1日	山中武雄館長就任
1982年	昭和	57年	4月		「おはよう・時間を守ろう推進運動」第三月曜日と交通安全週間 登校時間に鵜川口バス停付近に立つ
1984年	昭和	59年	11月		第一回鵜川文化祭が開催 芸術部5日～6日 芸能部6日午後 (現在 みのりの作品展と芸能発表会)
1985年	昭和	60年	6月	9日	能都町町制30周年記念事業「地区対抗運動会」 総合優勝鵜川地区
1986年	昭和	61年	4月	1日	男女雇用機会均等法施行
			10月		石川県産業展示館でにわか2基展示
1987年	昭和	62年	2月	22日	第一回能都町民ソフトバレーボール大会開催 優勝 鵜川栄町B、二位 二友会(二区)、三位 ポセイドン(浜出)

1988年	昭和	63年	9月	23日	第39回全能登祭太鼓打競技輪島大会に祭囃子教室が参加 敢闘賞・殊勲賞・中学の部2位等受賞
1989年	昭和	64年	1月		昭和天皇崩御(7日)「平成」に改元(8日)
	平成	元年	2月		能都町民の生涯学習等に関する意識調査実施
1991年	平成	3年	4月	13日	能都町役場本庁舎・支所・出張所が第2・第4土曜日が休みになる 能登国際テント村'91 にわか出向
1992年	平成	4年	5月	16日	香川県丸亀市 丸亀お城祭り 2基にわか出向(17日まで)
			9月	12日	学校週5日制導入 毎月第2土曜日が休みになる
1993年	平成	5年	2月	7日	能登半島沖地震発生。石川県で最大震度5
			4月	3日	能都町役場(支所・出張所含む)が毎週土曜日が休みになる
1995年	平成	7年	4月	22日	学校週5日制 毎月第2土曜に加え第4土曜も休みとなる
			10月		太田郁雄館長就任
1996年	平成	8年	1月	28日	第一回、親子スキー教室(以降平成14年度まで毎年続く)
			10月	6日	第一回ミニ四駆大会
1997年	平成	9年	8月	12日	鵜川バイパス開通
1998年	平成	10年	4月	30日	鵜川伊呂波カルタの読み札が完成
1999年	平成	11年	6月	23日	男女共同参画社会基本法 公布・施行
			4月	1日	鍋谷平次館長就任
2000年	平成	12年	6月	2日	「七尾・祭りの國 能登キリコフェスティバル」和倉温泉に にわか出向 (以降平成17年まで毎年)
2001年	平成	13年	4月	27日	ふる里芸能出前講座開講 鵜川小へ出前講座行う
			12月	14日	ALTとクリスマス会を行う(以降数年継続)
2002年	平成	14年	4月	6日	学校週5日制 毎週土曜日が休みとなる
			8月	10日	「石川の夏まつり・歩行者天国」にわか出向
			10月	1日	鵜川伊呂波歌留多完成 販売
2003年	平成	15年	9月	15日	七見の獅子舞が8年ぶりに復活
			8月	20日	小垣道路・高鳥トンネル開通
2005年	平成	17年	3月	1日	能都町・柳田村・内浦町と合併 能登町が誕生
			4月	1日	米田健館長就任
			5月	26日	鵜川地区自主防犯組織「うかわっ子を守る会」発足
			8月	1日	公民館の休館日が月曜・火曜・祝日から日曜・月曜に変更
2006年	平成	18年	4月	1日	鵜川学童クラブ「くぬぎ」公民館内に設置(平成24年度末閉鎖)
			10月	15日	第二回全国凧あげ能登大会で鵜川公民館が最優秀賞受賞
2007年	平成	19年	3月	25日	能登半島の北西の沖を震源能登半島地震発生(M6.9)
2009年	平成	21年	6月	7日	鵜川地区体育祭が10月から6月に変更になる
2011年	平成	23年	3月	31日	原勤堂の冊子完成 紙芝居完成
			4月	1日	梅田真人館長就任
			10月	10日	第一回能登町民大運動会開催(柳田植物公園)(以降毎年続く)
			11月	20日	原勤堂・第6代横綱 阿武松・久田船長をゆるきゃら化
2012年	平成	24年	6月	23日	特色ある活動事業「ミニミニにわか作り教室」開始
			6月	26日	鵜川公民館「いしかわ地域版ISO認定」 鵜川地区「いしかわ版環境ISO連携モデル事業」モデル地区に認定
			10月	31日	キッズハロウィンをはじめる(以降継続)
2013年	平成	25年	1月	1日	特色ある活動事業「うかわ今昔暦」配布
			12月	25日	いしかわ地域版ISOエコギフト大賞 金賞を受賞
2014年	平成	26年	1月	1日	特色ある活動事業「ふれあい号外・鵜川絵巻」発行
			3月	2日	能登町生涯学習大会で発表(地域版ISO関係)
			3月	31日	鵜川中学校閉校
			6月	19日	特色ある活動事業「ミニミニにわか作り教室」開始
2015年	平成	27年	4月	1日	馬場等館長就任
			5月	15日	特色ある活動事業「ミニミニにわかを作って21美に応援に行こう!」 (個展7/6～12)(9/5にミニミニにわか祭で町内運行)
2016年	平成	28年	4月	2日	角弘子館長就任
			11月	1日	特色ある活動事業、いどり祭の全日程ビデオ撮影(8日間)
2017年	平成	29年	2月	26日	特色ある活動事業 いどり祭DVD完成
			8月	13日	鵜川公民館設置70周年記念式典実施

能登町長 持木 一茂

鵜川公民館創立七十周年、誠におめでとございます。
今から七十年前と言いますと、太平洋戦争が終結して
2年後であり、まだまだ社会が混乱し、大変な時期であり
ました。

そのような中、旧鵜川町では鵜川公民館を設立し、町民
の交流や学習に力を入れてこられました。これは明治の初
めから続く原勤堂さんの意志が脈々と受け継がれているも
のと感じ、鵜川の皆様の地域を大切にする思いに心が熱く
なります。

鵜川地区では久田船長や阿武松緑之助など、歴史に名を
残す偉人を何人も輩出されております。こういった方々の
偉業を広め伝えていくことも鵜川公民館が主軸となって行
っていただいております、日頃の積極的な活動に深く感謝申し
上げます。

今後も、地域の皆様が気軽に集える社会教育の場として
取り組まれることをお願いするとともに、鵜川地区の益々
のご発展をお祈りいたしまして挨拶いたします。



平成 25 年度 敬老会



平成 28 年度 敬老会

このたびは、鵜川公民館創立七十周年を迎えられ、心よりお祝いを申し上げます。

私は、およそ創立時からの、同じ時代を歩んできた者の一人として、七十年の重みを感じているところです。高度経済成長期やまたその停滞期など、良いときも、そうでないときも、地域住民にとっての、当たり前前の存在として、いつもここに、毅然と鵜川公民館がありました。

その活動は、赤ちゃんから高齢者まで対象とし、家族や地域の絆を深めてきたものです。その成果を讃えるのは、現在の角館長へとつながってきた、これまで献身的な活動をされてきた歴代の館長と、地域住民の皆様であると思っております。

鵜川公民館を代表するにわか祭囃子教室、久田船長碑前祭の事業の継承や、今後さらに鵜川地区の特色を活かした新たな行事等を展開していく中で、より地域の皆さまの絆が深まり、公民館が地域の核として、これまで以上に発展していくことを祈念いたします。

末尾ではありますが、この記念式典開催にご尽力いただいた関係者の皆様に敬意を表したいと思います。



平成 25 年
いしかわ地域版
環境 I SO
エコギフト大賞
金賞受賞

県庁にて活動内容と
効果を発表し、
谷本知事に
講評いただき



後日、中口教育長に受賞報告しました。



第九代目館長 太田 郁雄

鵜川公民館 七十周年記念として記念誌作成の原稿依頼を受け
記憶をたどってみた。

私の館長としての勤めは有能なスタッフに恵まれ有意義に過ごすことが出来た。特に主事とは机を並べていてお互いが何を考えようかと思っていることが分かり合える状態だった。地味ではあるが、公民館活動の王道を歩き楽しい毎日だった。

初めて館長の研修会に出席した折に聞いた講演の中での印象に残っていた言葉がある。それは「公民館は住民の実生活に即した教育、学術、文化に関する事業を行う施設である。ということ」で役場の観光課、商工会のイベントを代替りして、マスコミに派手に取り上げられることより、地にしっかり足をつけた活動を皆さんに強くお願いしたい」とのことであった。

ふりかえると七十年間の鵜川公民館活動の一コマとして、初心を忘れることなく過ごすことが出来、多くの人との出会い、ふれあいもあり沢山の思い出を持つことが出来た。これもひとえに町民の方々の協力があったからである。そして公民館活動の大切さをより強く感じた四年間であった。

鵜川公民館は歴代の館長をはじめとするスタッフの努力により地域のシンボルとして町民の誰でも気楽に来館し自分の趣味を楽しめる場、おしゃべりが出来る場で老若男女を問わず気軽に利用

してもらえる場所として提供されています。今後、ますます町民の皆様から愛される公民館としての発展を期待します。



平成 8 年 体育祭



平成 9 年 ミニ四駆大会



平成 10 年 ソフトボール大会



平成 10 年 武者絵コンクール

鶺川公民館が七十年という節目の年を迎え、私が公民館長だった頃を振り返ってみました。

平成十一年、生涯駅員であった私のもとに、公民館長の依頼がありました。当時鶺川公民館長と言えば学校の先生を定年退職された方などの教育者ばかりで「民間あがりの私でいいのか？」と戸惑い、当時の区長会長にも相談をした事も記憶に鮮明に残っています。

しかし、当時の主事の方々に助けられ、沢山の人が集まって協力してくれました。前任者の時代に読み札と絵札が完成していた「鶺川伊呂波歌留多」を、助成金で制作し、商品化することが出来ました。今では、色々なご当地カルタがありますが、当時はまだ珍しく、県の公民館大会でも発表させていただき、輪島市の公民館へも出張講座をしました。その他にも、ソフトボールなどの各種大会や、歩こう会で鶺川伊呂波歌留多にちなんだ場所巡りをしたこと、阿武松の紙芝居を作ったこと、和倉や香林坊へにわかを出向したこと、高鳥トンネル完成の際には子どもにもわかを出して保育所の子ども達と練り歩いたこと、そして、武者絵コンクールを一年生から描いてもらうようになり当時の校

長先生が「子どもたちの武者絵を描いている時の目がキラキラしている」とおっしゃってくれたことなど沢山の事が思い出されます。

時代は変わっていきますが、今後も鶺川公民館には、昔からあるものを次の世代に伝えていってほしいと心から願っています。



平成 11 年 運営委員会



平成 11 年 小学生の地域学習



平成 13 年 レトロ玩具教室

教員生活を終え、趣味の釣りや畑に熱中していた頃、前館長鍋谷平次さんの後を受け、平成十七年四月 鶴川公民館館長の辞令を交付されました。当時の公民館主事は梅田真人さん、馬場康喜さんで、協力委員に馬場源吉さん、釣谷松次さん二名、体育指導員は松浦さん、森さんというような面々でした。当時の勤務体制は半常勤で、午前中を中心に勤め始めました。今回このような寄稿文を書く機会をいただき、過去を振り返ってみました。

春には運営委員会で年間行事を計画し、夏には和倉でのニワカの出向・小垣地区と鶴川地区で行っていた盆踊り。秋には清掃ボランティア・グラウンドゴルフ大会・体育祭・敬老会・バザー・久田船長碑前祭・文化祭での作品展・芸能発表会。冬にはミニ二門松作り、新春麻雀大会・囲碁大会。どの行事も沢山の人が参加してくれました。

また、在任中には、防犯委員会・鶴川小学校・鶴川中学校・公民館による「鶴川っ子を守る会」を結成し、鶴川の子ども達を守る自主パトロールを月に二回開催するようになり、小学校や中学校の入学式や運動会や卒業式などの節目の行事にも参加させていただきました。

鶴川保育所のサンタさんになった事もありましたし、宇出津公民館へ出張凧作り教室で出向いた事もありました。どれも、公民館に勤務していたからこそできた経験でした。他にも、平成十八年十月、柳田で現在も行われている、「全国凧揚げ大会」で横綱・阿武松緑之助を描いた六畳の大凧が高々と空に舞い上がり、最優秀賞をいただいたことは大変大きな喜びになったこと。平成十九年三月能登半

島地震突然の激しい揺れに驚いたこと、鶴川の被害の大きさに、心を痛めたこと。今でも強く心に残っております。

公民館での研修旅行で二泊研修(南紀・四国・神戸方面・京都方面など)へ行ったこともありましたが、思い出は書ききれないほどです。

平成二十三年三月、私の館長勤務を六年(過去に教員をしながら公民館主事を十年勤めました)で終えました。スタッフの皆さんも、地域の皆さんも、長い間ありがとうございました。

平成 18 年
「阿武松」大凧作成
全国凧あげ能登大会で最優秀賞



平成 20 年一泊研修旅行(京都)

第十二代目館長 梅田 真人

この度は鶺川公民館が創立七十年という目出度めでたき年にあたり一言述べさせていただきます。

私が公民館に勤めるきっかけになったのが、平成十一年に鍋谷平次館長から「主事として勤めないか？」と声をかけられた時からです。自分の本職である神職としての務めをしながらの勤務でしたので大変迷惑もかけたことと思います。理解ある鍋谷館長と色々な話しをしながら楽しく仕事をさせて頂きました。

平成十七年からは新しく米田館長が就任され、鍋谷館長から引き継いだ「原 勤堂」の冊子作成に色んな人の協力を得ながら完成した時の喜びは今でも覚えています。

米田館長から次の館長に指名された時には、「自分のような若輩者が」と思いましたが、新しく現在の鍋谷主事を迎えて他の公民館にない独自の発想で色んなことにチャレンジして来ました。

地域の人に支えられ、沢山のご協力をいただいたお陰で何とか二期（四年間）務めることが出来ました。ありがとうございました。

これからも地域の方々と接し気軽に入出りの出来る公民館として、いろんな人が来館され鶺川地区のランドマーク

として、先人たちの残してきた古きを大切にし、そして新しいことにも挑戦し続けてください。



平成 26 年 10 月 キッズハロウィン



平成 27 年 3 月 はらきんちゃん賞表彰



平成 24 年 6 月 鶺川地区運動会

鵜川公民館創立70周年に

第十三代目館長 馬場 等

鵜川公民館創立70周年おめでとうございます。

私は一年間だけでしたが、館長として貴重な経験をさせていただき、
鵜川地区の皆さんに感謝いたします。

公民館の使命は、いつでも地域の人たちが集まれる場を、提供する事だと思
います。

70周年という年月は、他の公民館とは違う確かな歴史を刻んでいると思
います。「能登町に鵜川公民館あり」といつまでも誇れる存在であり、鵜川公民館
が地域活動の中心として、80、90、100周年迎える事ができますように、
私も微力ながら協力させて頂きたいと思ひます。



平成二十七年
まつりの絵表彰式



平成二十七年
町民大運動会

第十四代目館長 角 弘子

平成二十三年の春、鍋谷・米田元館長から公民館長を依頼されましたが当時能登町婦人団体協議会の会長をしていてそれに付随したあて職が多く身動きできなかつたため丁寧に断りしてしてから五年目、前館長が任期途中で退任され運営審議委員長の責任上空白にするわけにはいかず平成二十八年四月、十四代館長職を引き受けることになりました。

第二次世界大戦による廃虚の中から社会教育の重要性を認識した鵜川町の先人たちがいち早く公民館を設置し、地域住民のコミュニティの場を提供したことは、人と人との交わりと連帯の絆を深めることの大切さを重要視したからに違いありません。学校教育のみならず社会教育にも力を注いだ当時のリーダーには頭が下がる思いです。あれから七十年、我が国の高度の経済成長と科学技術の無限の進歩は多くの現実的な恩恵をもたらしました。日本人の努力と工夫のすばらしさは世界中が認めるところです。しかし一面、精神の弛緩と荒廃を付随させたことも否めない現実です。はき違えた自由や個性が謳歌し、自己中心的な利益を尺度とした人間関係が生まれ、人と人との心の通い目が見失われていきました。

私たち鵜川地区住民は、原勤堂・久田佐助・阿武松緑之助の偉人たちの教えを代々守り続け、知育・徳育・体育ともに備わった人間性を重要視し、この地域の風土の中で培われた豊かな感性を調和させてきました。鵜川地区に育てられた私たちはこの精神を次の世代へと教え引き継ぐ責任があります。鵜川公民館創立七十周年を機会に今一度人間存在の真実の意味を根源的などころで問い直し、設立当時の地域への熱い思いにふり返り、公民館の役割と社会教育の重要性を考えてみたいと思います。



平成 28 年 芸能発表会



平成 29 年カルタ大会



平成 29 年麻雀大会

生活の合理化へ 婦人の力を中軸に

鵜川町生活改善協議會生る

新時代の生活合理化を目ざす石川県生活改善協議會運動はその最下部末端機關として町村協議會の結成を急ぎ、その下に婦人を中軸として組織する。

生活改善協議會委員
1 協力機關
町長、町議會議長、婦人団体代表、青年団体代表、校長、PTA代表、学識経験者、産業団体代表、公民館協議會

2 同幹事會
1 実行機關
公民館長、婦人団体代表、青年団体代表、公民館職員

新時代に即応する生活態度を確立し、以て家庭並に郷土社会の生活の合理化をはかり進んで道義の昂揚産業の発展、文化活動の促進を期す。

指導目標
一、明るい豊かな文化生活をめざしてその合理化の能率の向上をはかる。
二、婦人団体の活動を促進する。
三、郷土の各種機関や青年産業研究協議會とも連絡し郷土振興に資する。

結集する若き力

青年産業研究協議會

昨年九月以来県下二百の公民館の施設として採りあげられてきた青年産業研究協議會運動は第二年度にはいよいよ全県的に展開する。鵜川町においても昨年十月二十日組織された委員会、幹事會を改組して強力な発足をみるべく目下各団体に委員推薦の依頼中である。

この運動は県連合青年団と県教育委員会が指導し、創造した全国に誇り得る運動で、清新な青年の若き力の結集により、郷土の発展に資する。この運動は、全町的に展開する。この運動は、全町的に展開する。

この運動は、全町的に展開する。この運動は、全町的に展開する。この運動は、全町的に展開する。

この運動は、全町的に展開する。この運動は、全町的に展開する。この運動は、全町的に展開する。

涵養、家計の合理化、貯蓄の奨励、無駄の排除、衣食住の改善、冠婚葬祭の改革、共同利用所、時間の節約、婦人休養日の設定、公休日の設定、伝染病の予防、害虫の退治、妊産婦の保護、乳幼児の保護、健康法の普及、公衆衛生施設の完備、人口問題の研究、各種レクリエーションの奨励、迷信の撲滅、國際知識の普及、等。

大人の愛情と責任

誓いおう、子どもの幸福

「子どもは可愛い」「子どもは大事だ」といふことは、今更あらためていふまでもありませんが、この子どもを自分の子としてのみ、みないで、広く社会の子、人類の一員として大人がよい環境のなかで育ててあげなければなりません。

この子どもは人権と幸福を守る「児童憲章」が定められている。児童は、よい環境のなかで育てられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。

児童は、よい環境のなかで育てられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。

児童は、よい環境のなかで育てられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。

讀書室

男女の交際と礼儀

男女の交際が自由になつて新しい健全な友情の芽が育つてゐる反面、目にあまる行動が散見されてゐる。このとき文部省が男女交際の正しいモラルとエチケットを発表したのである。

男女交際の心構えと、男女交際の礼儀の二章に分れて貸出しをしています。

男女交際の心構えと、男女交際の礼儀の二章に分れて貸出しをしています。男女交際の心構えと、男女交際の礼儀の二章に分れて貸出しをしています。

武連四Kクラブ
△秀峯三子山の内懐に抱かれた平和の里に武連一色の静けさ。この静けさ。この静けさ。

児童憲章
われらは、日本国憲法の精神にしたがひ、児童に對する正しい觀念を確立し、總ての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める。児童は、人として尊重される児童は、人として尊重される。

児童は、人として尊重される。児童は、人として尊重される。児童は、人として尊重される。

児童は、人として尊重される。児童は、人として尊重される。児童は、人として尊重される。

△卒業部員一検定液を用いて酸性土を調べ色彩グラフを作成する。△中級部員昆虫を採集してそれらの生態を研究記録する。△小学部員植物を採集し標本作成する。

農民會議—農業委員會
来る二十日には町の農業委員會、續いて八月二十一日には農業改良委員會が行われます。委員の選挙は農民自身の手で農業委員會を組織するに努めます。

農民會議—農業委員會
この社は天正年間(今より三百七十五年前)に火災にかかつて旧記を失つてゐる。この社は天正年間(今より三百七十五年前)に火災にかかつて旧記を失つてゐる。

農民會議—農業委員會
この社は天正年間(今より三百七十五年前)に火災にかかつて旧記を失つてゐる。この社は天正年間(今より三百七十五年前)に火災にかかつて旧記を失つてゐる。

團體だより
鵜川青年団
宇鵜川在住の男女青年を組織した新青年団結成の機運が熟し、五月三十日旧青年団を解散して「鵜川青年団」として発足、直ちに活潑な活動に入り、六月三日町内対抗野球大会の主催、十日純日本料理講習會の開催、同十七日婦人會主催の大隅回伯展、同二十四日庭球クラブ主催の庭球大会、同二十八日青年會主催の庭球大会、同二十八日青年會主催の庭球大会。

農民會議—農業委員會
委員の選挙は農民自身の手で農業委員會を組織するに努めます。委員の選挙は農民自身の手で農業委員會を組織するに努めます。

農民會議—農業委員會
この社は天正年間(今より三百七十五年前)に火災にかかつて旧記を失つてゐる。この社は天正年間(今より三百七十五年前)に火災にかかつて旧記を失つてゐる。

農民會議—農業委員會
この社は天正年間(今より三百七十五年前)に火災にかかつて旧記を失つてゐる。この社は天正年間(今より三百七十五年前)に火災にかかつて旧記を失つてゐる。

通知
鵜川小PTA
鵜川小学校父母と先生の會では五月十二日總會をひらき、本年度予算、事業計画を決定し、會費は今後校友會費と同時に徴収に改め、毎月十五日を学校参観日と定めた。

編集
後記
あえず第一号を差上げました。あえず第一号を差上げました。

編集
後記
あえず第一号を差上げました。あえず第一号を差上げました。

編集
後記
あえず第一号を差上げました。あえず第一号を差上げました。

おもいで



↑ 昭和26年～昭和52年までの
木造の鵜川公民館

(昭和44年まで1階は保育所
2階を公民館として使用した)

← 昭和26年5月27日の落成式



昭和34年8月26日豪雨災害(公民館前の通り)



昭和37年11月 校下社会体育大会



2代目館長
竹内久雄氏(町長)



7代目館長
浜谷至致氏



8代目館長 山中武雄氏(中央) 新年互礼会



昭和後半より
祭礼委員と協力し、
人を募り、
年に1～2度程度
各地に「にわか」
を県内外各地へ出向させた。

↑写真は和倉
←写真は丸亀

鵜川公民館創立70周年記念事業実行委員会

実行委員長 濱高 博

副実行委員長 妹石 武吉 高野 忍

実行委員 梅田 真人 竹口 太郎 泉 裕次郎 橋本 克治
上谷 浩之 稲葉 義康 江川 健介 鍋谷 善之
鷲 恵一 谷内 琢哉 牧 宜伸 七波 正春
田下 純子 安田 優香 藤谷みゆき

鵜川公民館 角 弘子 鍋谷 幸恵

2017年8月13日発行